

---

2019年度決算 及び  
2020年度業績見通し

---

説明資料

帝人株式会社  
2020年5月8日

# ポイント

## ■ 2019年度実績

- 2019年度実績営業利益は前年度対比約6%減の562億円（前回見通し\*対比2%増で着地）
  - ✓ アラミド繊維、国内ヘルスケア事業、IT事業が好調維持で収益獲得に貢献
  - ✓ 主力医薬品の欧米後発品発売やポリカーボネート樹脂の市況低迷による下方影響
  - ✓ 複合成形材料・炭素繊維を中心に新型コロナウイルス感染症の影響を受けるも限定的
- 2019年度EBITDA1,072億円は前中期計画最終年度目標（2019年度1,200億円超）未達となったが、中期期間において着実に成長
- 期末配当は30円/株で前回見通し\*より変更無し（中間とあわせた年間配当は60円/株）

## ■ 2020年度業績見通しと新型コロナウイルス感染症（COVID-19）影響

- COVID-19影響考慮前の計画では薬価改定影響をアラミド繊維、複合成形材料、国内ヘルスケア事業の販売増等でカバー
- COVID-19影響を織り込んだ結果、前年度対比減収・減益を想定
  - ✓ 自動車や航空機を重点市場とするマテリアル事業では前年度対比減収・減益は不可避
  - ✓ ヘルスケア事業およびIT事業は安定したキャッシュ創出力を有し、COVID-19影響は軽微

\* 前回見通しは2020年2月5日公表

- 
1. 2019年度決算及び前中期計画総括 P. 3
  2. 2020年度業績見通し P.15
  3. 参考資料 P.26

---

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2020年5月8日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

---

# 1. 2019年度決算及び前中期計画総括

## ◆ 実績ハイライト [前年度対比]

- 主力医薬品の欧米後発品影響やポリカーボネート樹脂の市況低迷影響、繊維・製品における天候不順等に加え、フィルム事業譲渡影響にCOVID-19影響も加わり、売上高は前年度対比減収
- 営業利益は、主力医薬品の欧米後発品影響やポリカーボネート樹脂の市況低迷影響に加え、炭素繊維の先行費用増等を、好調なアラミド繊維、国内ヘルスケア、IT事業でカバーできず、前年度対比減益
- 為替影響による営業外収益の減少に加え、フィルム事業子会社譲渡に係る一時費用の特別損失への計上や、繊維・製品事業の欧州自動車部材関連子会社（Ziegler社）に係るのれんの減損損失の計上等もあり、当期純利益は前年度対比減益

(単位：億円)

親会社株主に帰属する

売上高

営業利益

当期純利益

一株当たり配当金

[前年度対比]

-3.9%

-6.3%

-44.0%

-10円

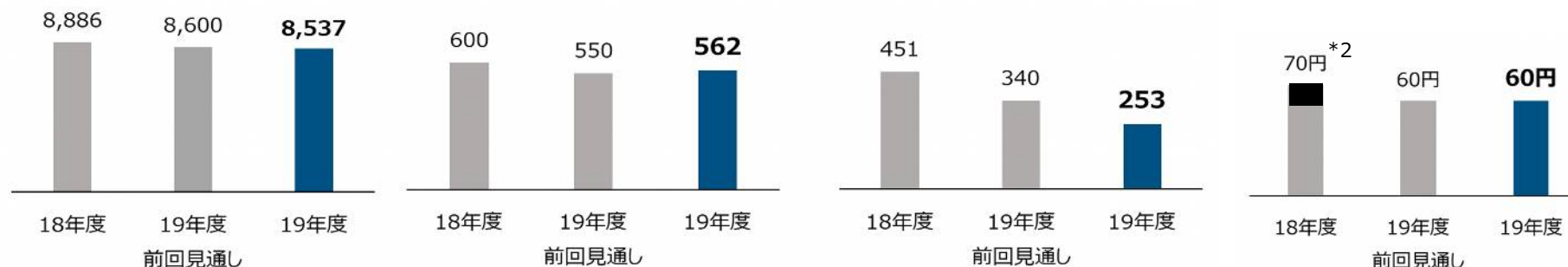
[前回見通し\*1対比]

-0.7%

+2.2%

-25.7%

変更なし



\*1 前回見通しは2020年2月5日公表

\*2 100周年記念配当10円/株を含む

## ◆ 実績サマリー [前年度対比]

	(億円)			
	18年度	19年度	差異	増減率
売上高	8,886	8,537	-348	-3.9%
営業利益	600	562	-38	-6.3%
営業外損益	3	-19	-21	-
経常利益	603	543	-59	-9.8%
特別損益	1	-128	-129	-
税金等調整前 当期純利益	604	416	-188	-31.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	451	253	-198	-44.0%

ROE <sup>*1</sup>	11.2%	6.3%	-4.9%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	9.3%	8.7%	-0.6%
EBITDA <sup>*3</sup>	1,076	1,072	-4

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出  
(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

	(億円)			
	18年度	19年度	差異	増減率
設備投資 <sup>*4</sup>	628	686	+58	+9.2%
減価償却費	476	510	+34	+7.1%
研究開発費	364	345	-19	-5.3%

2019年度配当金：前回見通し<sup>\*5</sup>から変更なし  
 中間 30円/株 期末 30円/株 年間60円/株  
 (18年度：年間70円 [100周年記念配当10円/株を含む])

◇為替・原油価格	18年度	19年度	
PL換算レート	円/米ドル	111	109
	円/ユーロ	128	121
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	69	60	

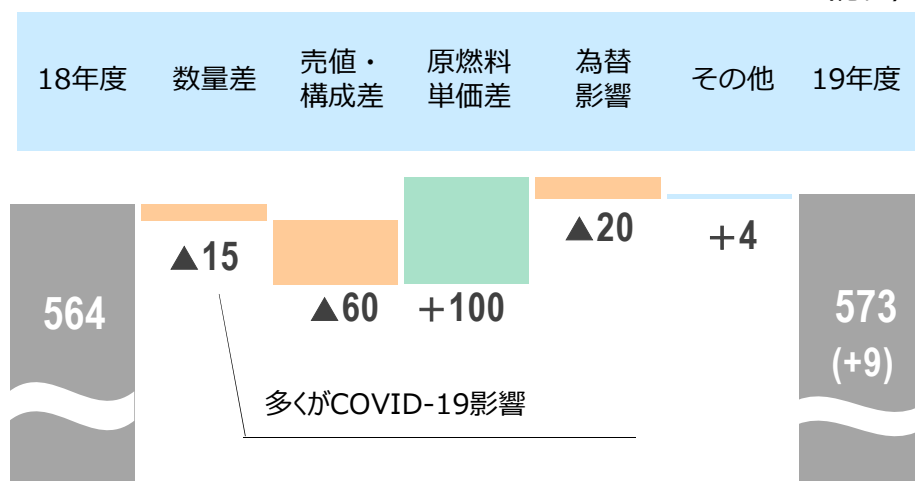
\*3 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む

\*5 前回見通しは2020年2月5日公表

## ◆ マテリアル事業領域 [前年度対比]

	(億円)			
	18年度	19年度	差異	増減率
売上高	6,716	6,338	-377	-5.6%
EBITDA <sup>*1</sup>	564	573	+9	+1.6%
減価償却費	329	360	+31	+9.4%
営業利益	235	213	-22	-9.3%

<EBITDA<sup>\*1</sup>増減内訳> (億円)

## ■ アラミド繊維

- 自動車需要減少の影響を受けて摩擦材やゴム補強材等の自動車関連用途の販売数量が減少
- 売値・構成差の改善で収益貢献

## ■ 炭素繊維

- 航空機用途においてサプライチェーンでの在庫調整等の影響を受け、販売量が微減
- 中間材料開発や米国新工場建設等の先行投資継続

## ■ ポリカーボネート樹脂

- 米中貿易摩擦等の影響による市況低迷にCOVID-19影響が加わり需要が低下。汎用品価格が低下し採算悪化
- 販売量は前期並みを維持

## ■ 複合成形材料

- CSP<sup>\*2</sup>社のピックアップトラックやSUV等の自動車向け量産部品売上は概ね堅調に推移したものの、3月以降、米国自動車メーカーがCOVID-19影響を受け生産停止となり販売減

## ■ 繊維・製品

- 衣料繊維は天候不順等による市況低迷で低調
- 産業資材ではインフラ補強材などが好調を維持

\* 1 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

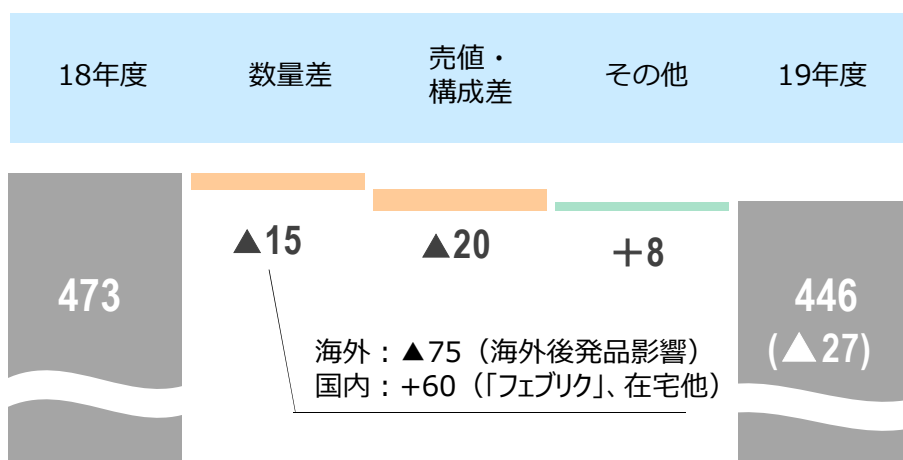
\* 2 Continental Structural Plastics Holdings Corporation

## ◆ ヘルスケア事業領域 [前年度対比]

	(億円)			
	18年度	19年度	差異	増減率
売上高	1,575	1,539	-36	-2.3%
EBITDA* <sup>1</sup>	473	446	-27	-5.7%
減価償却費	118	120	+2	+1.6%
営業利益	355	326	-29	-8.2%

<EBITDA\*<sup>1</sup>増減内訳>

(億円)



\*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

## ■ 医薬品

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」が国内で順調に販売拡大したが、欧米では後発品の影響を受け収益低下
- 先端巨大症・下垂体性巨人症/神経内分泌腫瘍治療剤「ソマチュリン\*<sup>2</sup>」が順調に販売拡大

## ■ 在宅医療

- 睡眠時無呼吸症候群治療におけるCPAPのレンタル台数が順調に伸長
- 在宅酸素療法（HOT）市場において、携帯型酸素濃縮器や統合型酸素濃縮器（ハイサンソ）の展開等により、高い水準のレンタル台数を維持

## ■ 新ヘルスケア

- 埋め込み型医療機器事業が堅調

## ■ 共通

- 医薬・在宅医療組織統合・コスト削減効果の発現開始

\*<sup>2</sup> ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です



## ◆ その他 [前年度対比]

	(億円)			
	18年度	19年度	差異	増減率
売上高	595	660	+64	+10.8%
EBITDA*	100	113	+13	+13.2%
減価償却費	28	33	+5	+17.0%
営業利益	72	80	+8	+11.6%

\* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

## ■ IT

- 電子コミック配信サービス及び企業・病院向けITサービスが好調

## ◆ 営業外損益 [前年度対比]

	(億円)		
	18年度	19年度	差異
受取利息	10	9	-0
受取配当金	23	14	-9
持分法による投資利益	4	20	+16
為替差益	-	11	+11
デリバティブ評価益	24	0	-24
雑収益	11	13	+2
営業外収益 計	72	68	-4
支払利息	35	37	+2
為替差損	8	-	-8
寄付金	5	4	-1
デリバティブ評価損	-	22	+22
雑損失	21	24	+2
営業外費用 計	70	87	+17
営業外損益 計	3	-19	-21

## ◆ 特別損益 [前年度対比]

	(億円)		
	18年度	19年度	差異
固定資産売却益	3	2	-1
投資有価証券売却益	48	60	+11
受取和解金	45	-	-45
その他	3	5	+3
特別利益 計	99	67	-32
固定資産除売却損	23	27	+4
投資有価証券評価損	2	1	-1
減損損失	60	110	+50 *1
事業構造改善費用	0	42	+42 *2
その他	12	14	+2
特別損失 計	98	195	+97
特別損益 計	1	-128	-129

\*1 欧州自動車市場低迷影響を受けた繊維・製品事業子会社に係る減損等で増加

\*2 フィルム事業譲渡による一時費用を計上

## ◆ 財政状態 [前年度対比]

	(億円)			内 為替 換算影響
	19年 3月末	20年 3月末	差異	
総資産	10,207	10,042	-164	-158
負債	5,934	5,928	-6	-66
(内 有利子負債)	3,692	3,819	+127*	-36
純資産	4,272	4,114	-158	-92
D/Eレシオ	0.90	0.97	+0.07	-
現預金等	1,406	1,565	+159	

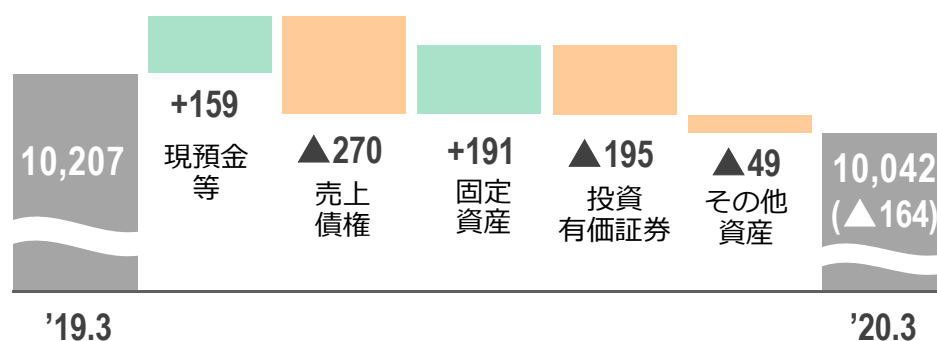
\*IFRS第16号「リース」適用により増加

## ◆ キャッシュ・フローの状況 [前年度対比]

	(億円)		
	18年度	19年度	差異
営業活動	809	942	+133
投資活動	-413	-679	-266
フリー・キャッシュ・フロー	396	263	-133
財務活動他	-153	-104	+49
現金及び現金同等物増減	243	159	-84

## ◇ 総資産 増減内訳

(億円)



## ◇ BS換算レート

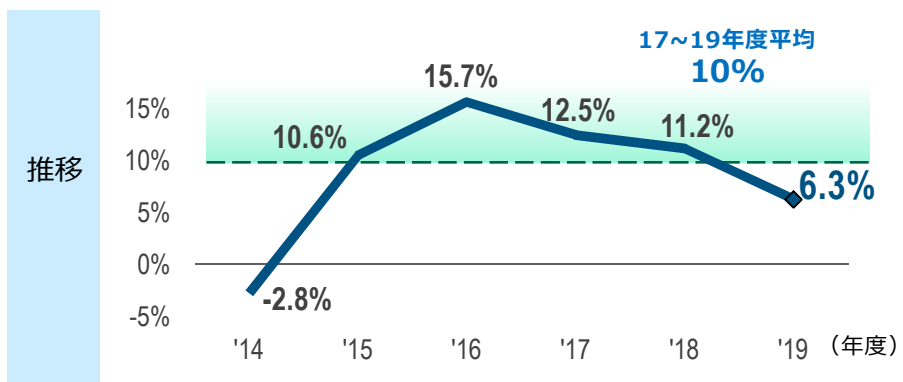
	19年 3月末	20年 3月末
円/米ドル	111	109
円/ユーロ	125	120

# 1. 2019年度決算 (前中期計画総括)

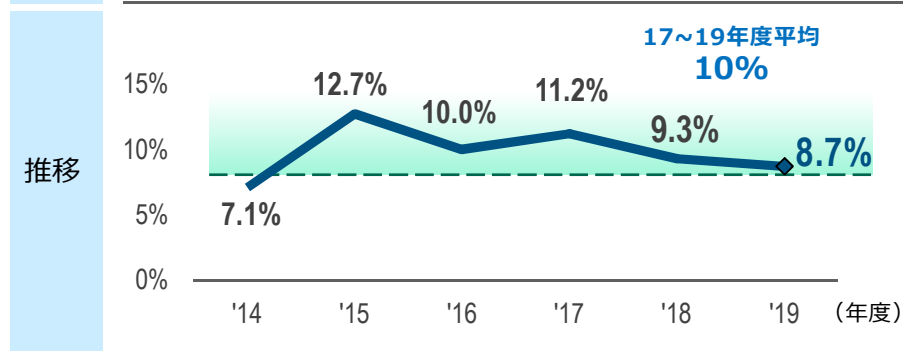
## ◆ 業績指標

- ROEは2017-2018年度は中期目標を達成も、2019年度は未達
- 営業利益ROICは中期期間を通じて目標を達成
- EBITDAは2019年度目標未達も中期期間中に成長 (期間平均 +154億円)

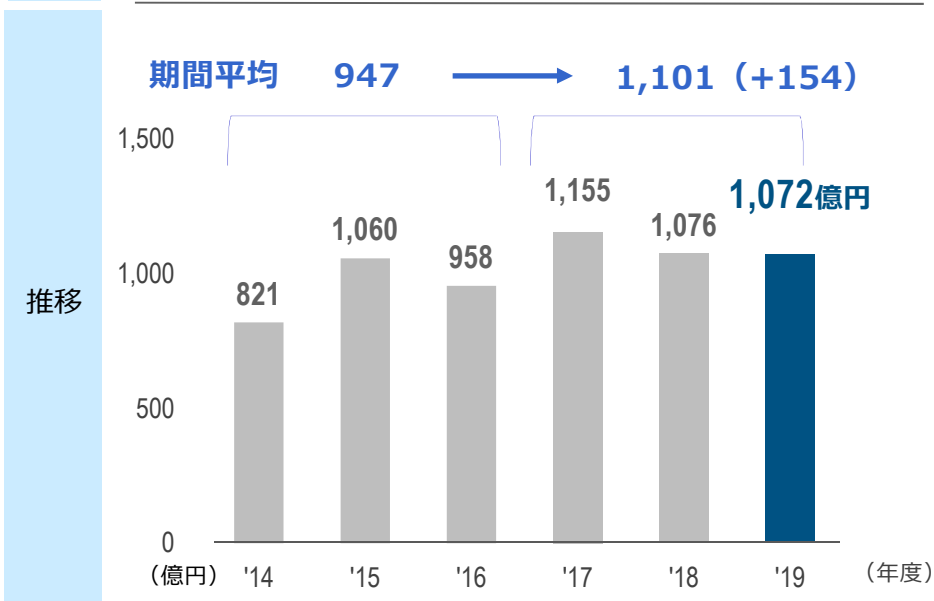
中期目標 ROE\*1 **10%以上**



中期目標 営業利益ROIC\*2 **8%以上**



中期目標 EBITDA\*3 2019年度 **1,200億円超**



\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出

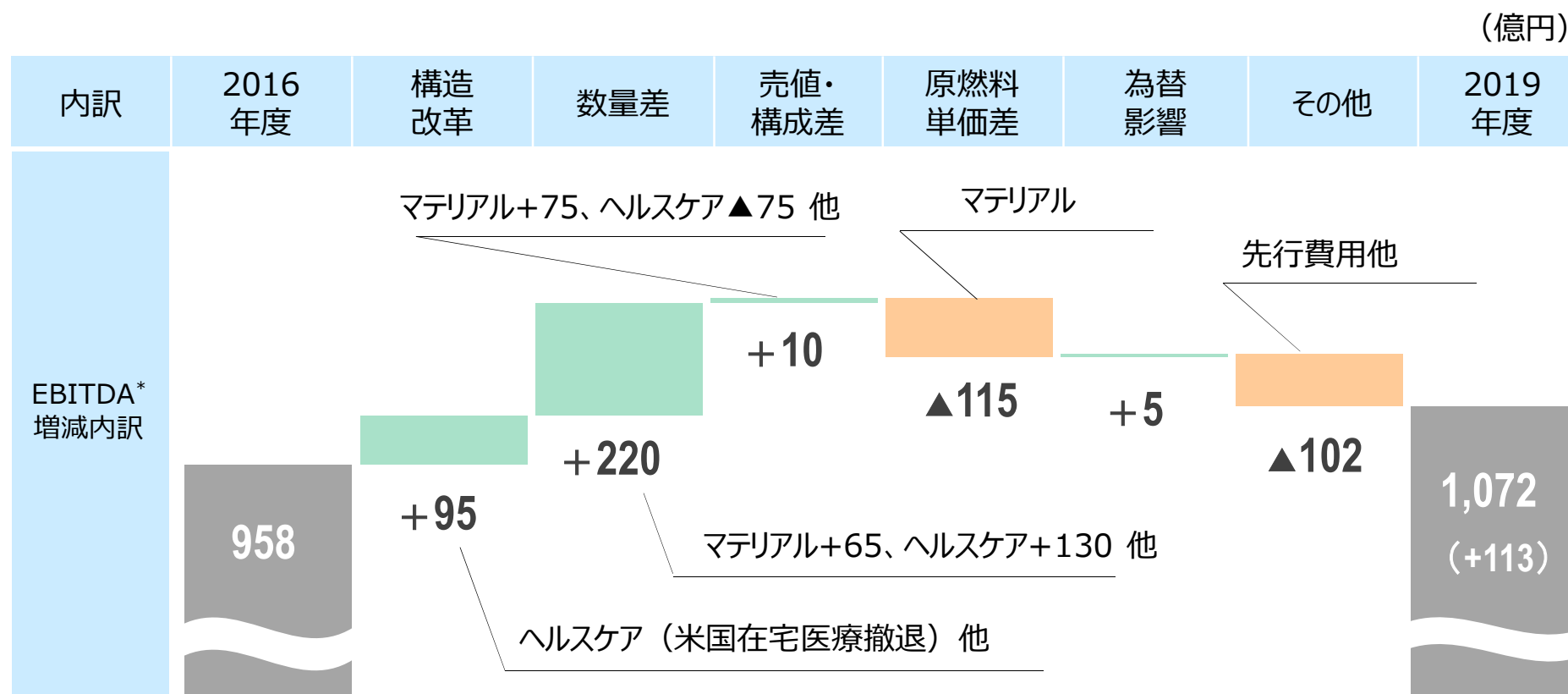
\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

## 前中期計画3年間のEBITDA増減分析

### ■ 連結合計

将来に向け積極的に先行費用を投入しつつ、構造改革、販売拡大等により着実に成長



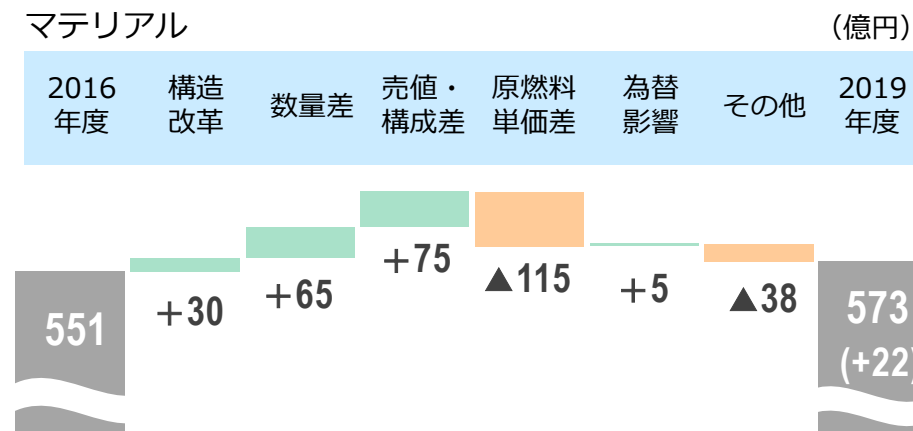
\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

## 前中期計画3年間のEBITDA増減分析

<EBITDA\*増減内訳>

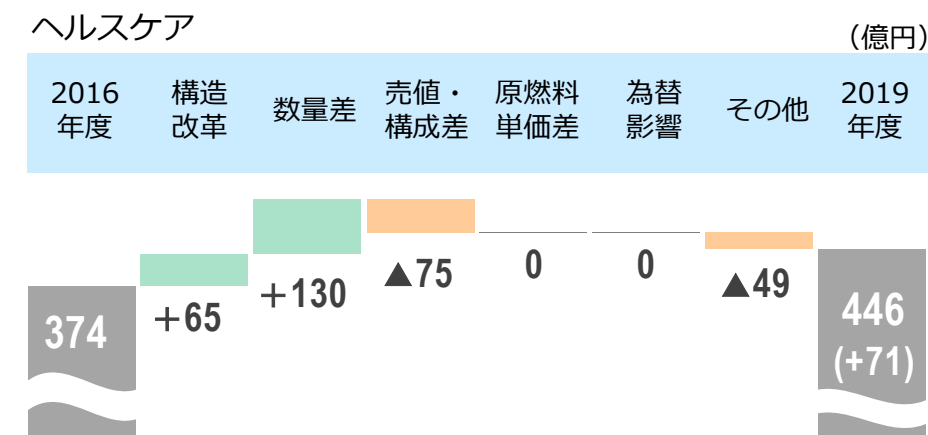
### ■ マテリアル

- ポリカーボネート樹脂市況悪化による売値低下や原燃料単価上昇等の影響を受けたが、CSP社買収による子会社化、アミドの売値・構成改善で成長
- 工場設備停止等の構造改革効果発現



### ■ ヘルスケア

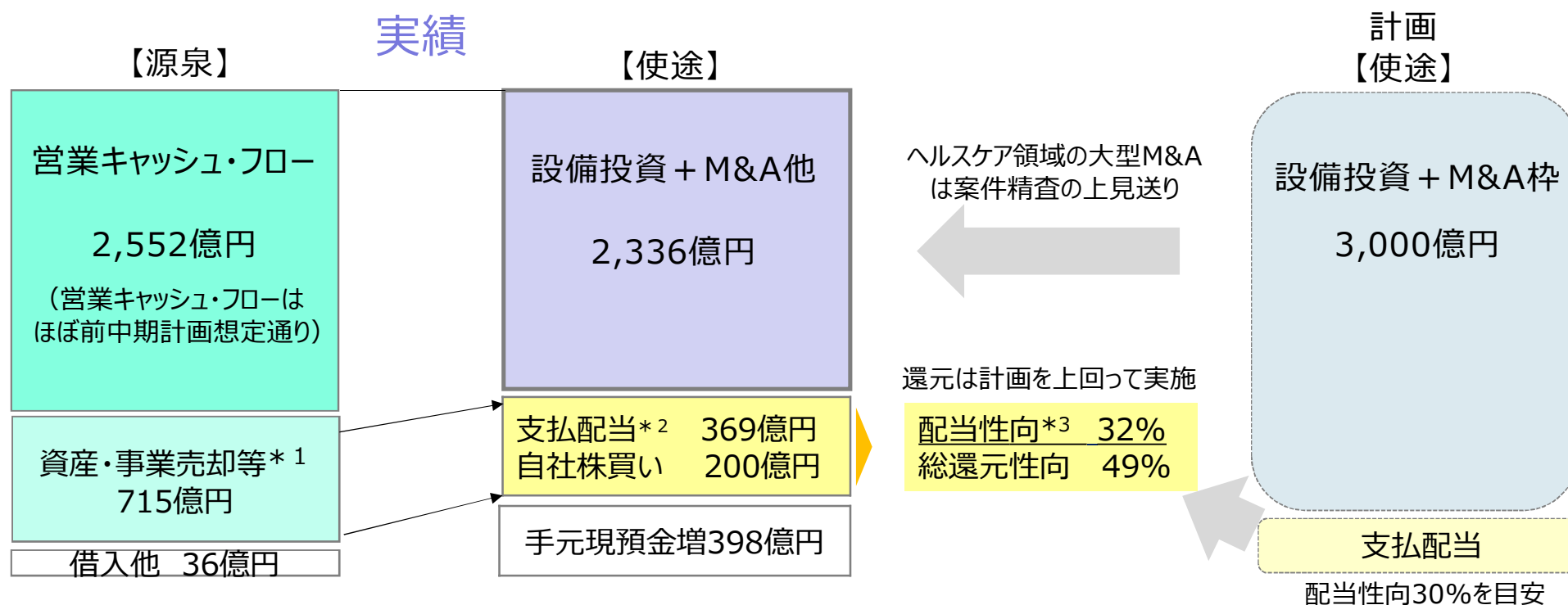
- 医薬品「フェブリク」や在宅医療等の国内ヘルスケアの順調な販売量拡大が、海外後発品や薬価・診療報酬改定影響をカバーし貢献
- 米国在宅医療撤退による構造改革効果発現



\* 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

## 前中期計画3年間のキャッシュ・アロケーション

- 事業活動で得た資金を中長期成長に向けた設備投資に活用（複合成形材料、炭素繊維）
- 配当性向目安に沿った配当と、資本効率向上を目的とした自社株買いによる株主還元実施



※17-19年度の配当金額\*2は 14-16年度対比で  
216億円→369億円と約1.7倍に増加

\*1 政策保有株式売却（キョーリン製薬HD他）、  
フィルム事業譲渡、大阪本社ビル売却 他

\*2 支払配当は帝人(株)分のみ \*3 配当性向は支払いではなく決定にもとづき算定

## 2. 2020年度業績見通し



## 中期経営計画2020-2022

前中期経営計画 2017-2019

「重点分野選択」

- ・新規コアビジネスの確立
- ・基礎収益力の強化

中期経営計画 2020-2022  
「成長基盤確立」

持続的成長へ  
～2030年に向けて～  
「持続可能な社会実現への貢献」



### 「成長基盤確立」への基本方針

① 機会創出

- ・「3つのソリューション」領域への投入資源を拡大し、社会課題への取り組みを加速
- ・将来の収益源育成に向けた積極投資により、ポートフォリオ変革・キャッシュ創出力拡大を加速

② リスク低減

- ・「環境リスク低減」の取り組みを強化し、気候変動を含む環境への影響を最小化

③ 経営基盤強化

- ・イノベーション創出基盤を強化し、事業機会創出を加速

## 2020年度短期経営計画 基本方針

中期経営計画初年度：「成長基盤確立」に向けた主要課題に取り組み、目標達成への道筋をつける年  
COVID-19影響はあるが、基本的な方針は変更なし

### 1. 戦略的重点投資/Strategic Focus

マテリアル

- 自動車向け複合成形材料の拡大と収益性向上
- 航空機向け炭素繊維中間材料拡大
- 機能的食品・整形・新規医療機器拡大
- 地域包括ケア関連新事業の創出

ヘルスケア

### 2. 収益基盤強化/Profitable Growth

マテリアル

- アラミド繊維生産能力増強・増販
- ヘルスケア事業の組織変革による帝人独自の価値創出
- 地域包括ケアシステム基盤構築

ヘルスケア

### 3. 経営基盤強化

環境貢献

- 環境価値ソリューション提供拡大による気候変動の緩和
- 帝人素材・技術を活用したサーキュラーエコノミー実現への貢献
- 組織改革・協創・DX・D&I推進によるイノベーション創出強化

イノベーション加速

## 帝人グループにおけるCOVID-19影響

- 今年1-2月をピークとした中国地域での工場稼働が困難な状況からは次第に回復
- 3月以降の欧米を中心とした感染拡大により、自動車・航空機分野を中心としたグローバルでの需要の大幅減やOEMの生産停止等があり、マテリアル事業全般において工場稼働調整、販売減の影響が続く
- グローバルでの外出・移動制限により、営業活動の低下や研究開発の遅延へ
- CEOを長とした新型コロナウイルス対策本部を設置し、BCP対策を実行するとともに、社会の早期回復に貢献すべく、感染症対策への積極的な取り組みを実行

## 帝人グループにおけるCOVID-19への対応

### 経営戦略

- 中長期的な戦略・方針は不変
- 財務リスク極小化とサプライチェーン保全に注力
  - 現預金等、流動性確保
  - 必須事業継続のための材料確保・設備保全
  - 在庫管理適正化・債権管理強化
  - 稼働低下に応じた固定費の削減
  - 増設工事を含むプロジェクトの実施時期の見極め

### 業務運営

- ステークホルダーの健康と安全確保を最優先
- 感染拡大防止を徹底
  - 従業員の感染防止に対する意識づけ強化
  - オフィス業務の原則在宅・テレワーク化
  - 必須業務に限定・縮小し、3密を回避
  - マスク着用や消毒薬配置による安全対策

### COVID-19対策への積極的な取り組み

- 自社の製品、サービス、ノウハウを最大限に活用した社会への貢献
  - 医薬品・医療機器の安定供給、医療サービスの継続的提供
  - 医療現場への医療用ガウンの提供（ディスポーサブルタイプ、ウォッシュアブルタイプ）と医療用ガウンの型紙公開
  - 治療薬の検討に対する吸入ステロイド喘息治療薬（一般名：シクレソニド）の供給体制確保
  - 人工呼吸管理に対する、自社開発・生産する酸素濃縮装置の増産体制確保
  - 「知的財産に関する新型コロナウイルス感染症対策支援宣言」に発起人として参画

## 帝人グループの財務状況と収益構造の変化（対リーマンショック発生時）

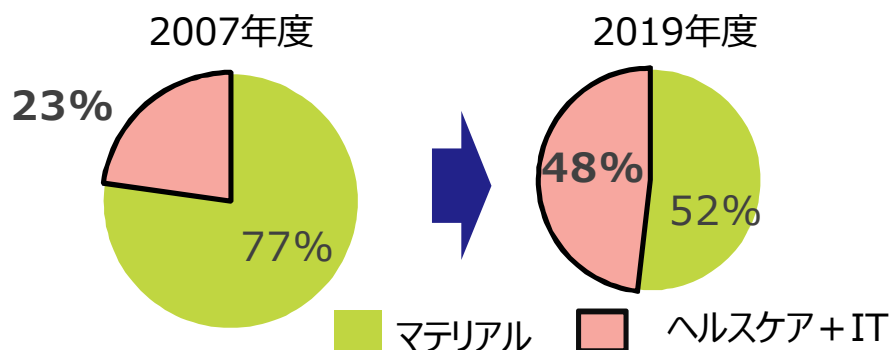
### ■ 財務体質改善（Net D/ELレシオほか）

- 金融機関からの十分なコミットメントラインを保有
- CP枠および手元資金も含め、当面の流動性を確保

財務関連指標	2007年度末 (リーマンショック発生前)	2019年度末
現預金等残高	191億円	1,565億円
手元流動性比率	0.2か月分	2.3か月分
Net D/ELレシオ※1	0.8	0.6
自己資本比率	38.5%	39.3%

### ■ ヘルスケア事業、IT事業のEBITDA構成比倍増※2

- キャッシュの安定創出力向上



### ■ マテリアル事業のポートフォリオ変革による収益構造の変化

#### <市況変動耐性向上>（プラス要因）

- コスト競争力強化や顧客との強固な関係  
アラミド繊維の収益拡大など
- 汎用化した素材・用途関連事業の比率低下  
樹脂事業の高付加価値化進展  
フィルム事業の譲渡など
- ファブライタ化の進展（固定費の低減）  
不採算領域の縮小など

#### <重点市場の変化>（COVID-19リスク）

- 自動車・航空機向け依存度の高まり  
（マテリアル売上高の約3割）

※1 Net D/ELレシオ=(有利子負債-現預金等)/自己資本

※2 EBITDA構成から「その他」は除く

## COVID-19影響を踏まえた業績見通しの前提

- ◆ 第1四半期(4-6月) においてCOVID-19の経済活動への影響大
- ◆ 第2・3四半期(7-12月) にかけて経済活動が徐々に正常化
- ◆ 第4四半期(1-3月) ではCOVID-19影響は概ね収束

参考) IMF(International Monetary Fund) April 2020, p4-5: Baseline Assumptions

*In the baseline scenario, the pandemic is assumed to fade in the second half of 2020, allowing for a gradual lifting of containment measures. . . . . ; The disruptions are assumed to be concentrated mostly in the second quarter of 2020 for almost all countries except China (where it is in the first quarter), with a gradual recovery thereafter as it takes some time for production to ramp up after the shock.*

※当期における帝人グループの業績予想開示の方針

- COVID-19影響の長期化リスクにより経済の先行きが不透明な状況下、精度の高い通期業績見通しの策定は困難
- 上記前提での見通しを策定・開示するが、期中の状況をみながら適宜修正見通しを開示していく

## ◆ 通期見通しハイライト [前年度対比]

## ■ 前年度対比で減収・減益の見通し

- 自動車や航空機を重点市場とするマテリアル事業がCOVID-19影響を受け、前年度対比減収・減益
- ヘルスケア事業では薬価改定影響はあるものの、IT事業とともに安定したキャッシュ創出力を有し、COVID-19影響は軽微

(単位：億円)

(億円)	19年度 実績	20年度 見通し	差異	増減率
売上高	8,537	7,500	-1,037	-12.2%
営業利益	562	400	-162	-28.8%
経常利益	543	400	-143	-26.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	253	230	-23	-8.9%

ROE *1	6.3%	6%	-0%
営業利益ROIC *2	8.7%	6%	-3%
EBITDA *3	1,072	950	-122
設備投資 *4	686	700	+14
減価償却費	510	550	+40

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出 \* 純資産+有利子負債-現金及び預金

\*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む

- 配当は、業績見通しの前提に不確定要素が大きいため、未定とする

2020年度配当金：中間・期末とも未定

(2019年度：中間 30円/株 期末 30円/株 年間60円/株)

## 前提条件

	19年度	20年度 見通し
通期平均為替レート 円/米ドル	109	108
円/ユーロ	121	120
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	60	30

◆ セグメント別 売上高・営業利益 **[前年度対比]**

- マテリアル：COVID-19影響考慮前の計画では炭素繊維新工場関連等の先行費用増があるものの、アラミドや複合成形材料などの販売量増で増収・増益。COVID-19影響により販売量減少を織り込み前年度対比減収・減益の見通し
- ヘルスケア：「フェブリク」が好調維持も薬価改定影響が大きく、前年度対比減益の見通し。COVID-19影響は軽微

	【参考】					(億円)	
	19年度 実績	20年度 COVID前	差異	20年度 見通し	対 COVID前	前年実績 との差異	増減率
売上高							
マテリアル*	6,338	6,650	+312	5,300	-1,350	-1,038	-16.4%
ヘルスケア	1,539	1,550	+11	1,500	-50	-39	-2.6%
その他	660	700	+40	700	0	+40	+6.1%
<b>合計</b>	<b>8,537</b>	<b>8,900</b>	<b>+363</b>	<b>7,500</b>	<b>-1,400</b>	<b>-1,037</b>	<b>-12.2%</b>
営業利益							
マテリアル	213	235	+22	90	-145	-123	-57.7%
ヘルスケア	326	280	-46	280	0	-46	-14.0%
その他	80	80	+0	80	0	+0	+0.1%
消去又は全社	-56	-65	-9	-50	+15	+6	-11.3%
<b>合計</b>	<b>562</b>	<b>530</b>	<b>-32</b>	<b>400</b>	<b>-130</b>	<b>-162</b>	<b>-28.8%</b>

\*マテリアルには繊維・製品を含む



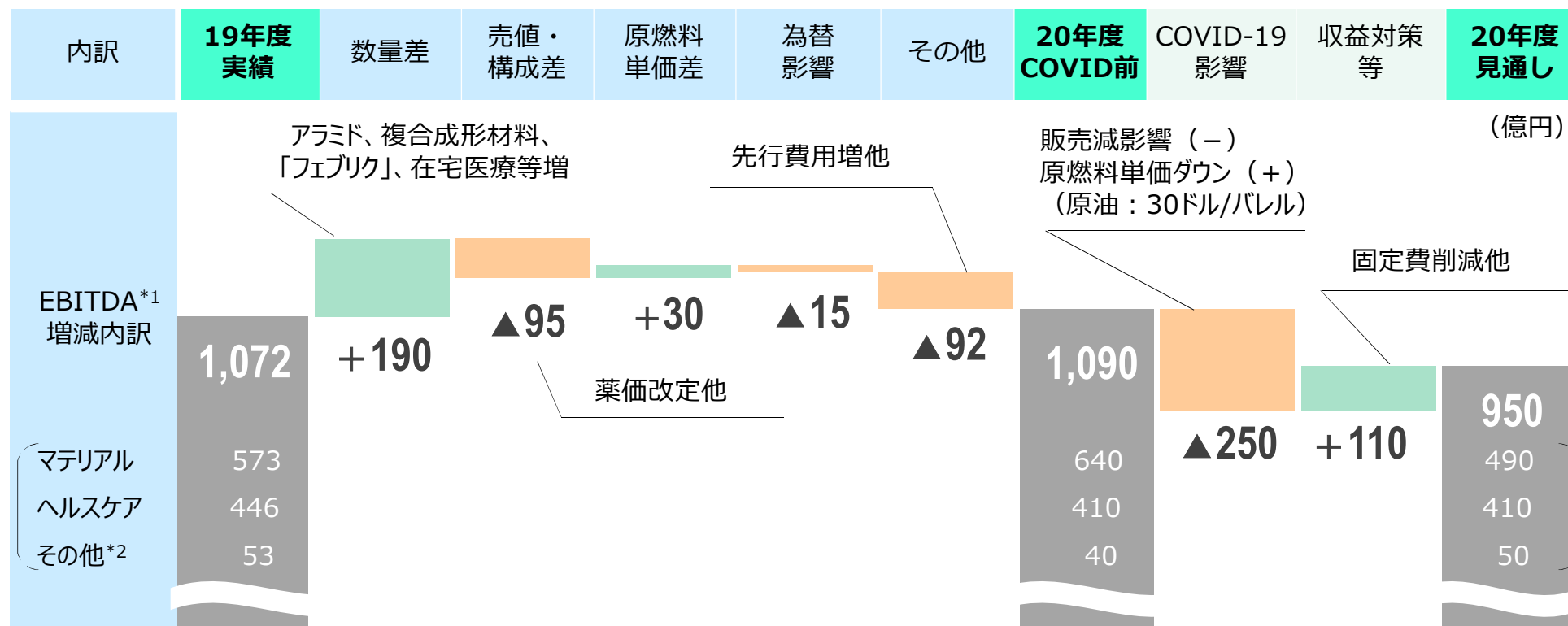
## 2020年度業績見通し EBITDA増減要因

■ COVID-19影響考慮前：前年度対比増加（+18億円）見込み

- アラミドや複合成形材料の販売量増が薬価改定影響や炭素繊維新工場稼働関連等の先行費用増をカバー

■ COVID-19影響考慮後：前年度対比減少（▲122億円）の見通し

- マテリアルにおいて原燃料安の効果はあるものの販売量減影響が大きいいため、固定費削減等の収益対策を講じていく



\*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 \*2 その他はその他および消去又は全社の合計としている

## 各セグメントにおけるCOVID-19影響と対策

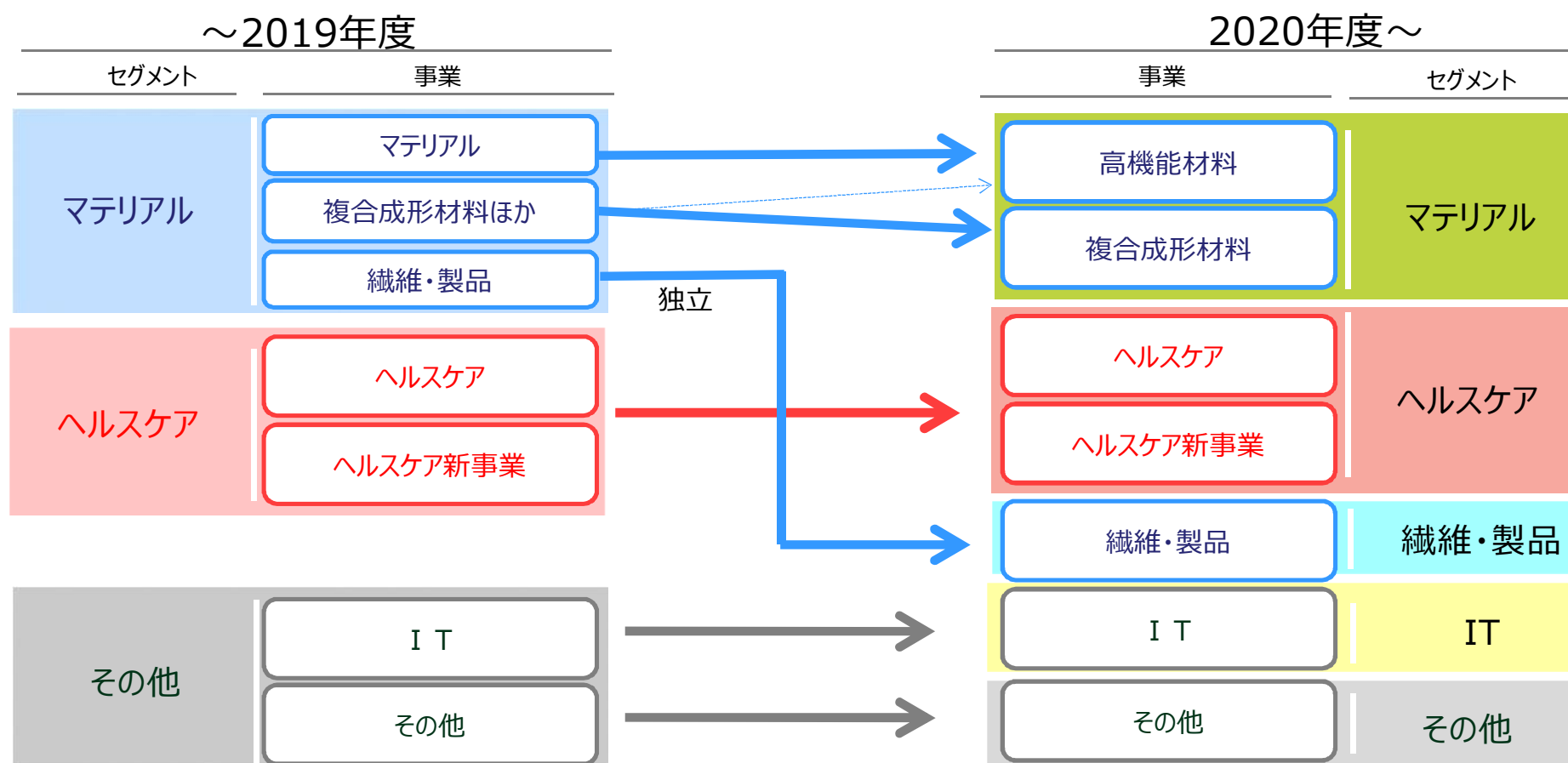
短期的な影響はあるが、中長期的な経営方針・戦略に変更はない

セグメント	COVID-19影響	対策
マテリアル	<p>【自動車・航空機関連用途中心に事業全般で販売量に影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車向け複合成形材料は、3月中旬以降のOEM生産停止により、販売量に大幅な影響あり</li> <li>航空機関連は、運航数減・LCC業績悪化等による需要低下と回復の長期化リスクが、販売量に影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収益低下を最小限にとどめる固定費削減策の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場の稼働調整や従業員の一時帰休</li> <li>・ 増設工事を含むプロジェクトの実施時期の見極め・適正化等</li> </ul> </li> </ul>
ヘルスケア	<p>【全体として収益への影響は軽微】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染リスク対策を行いながら、患者さんへの製品・サービスの安定供給を継続</li> <li>・ COVID-19および緊急を要する疾患以外の受診、手術を控える傾向</li> <li>・ 外出抑制、在宅・テレワークによる営業活動の低下、研究開発プロジェクトの進捗への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 患者さんを含むステークホルダーの皆様の安全を守ることを最優先とした事業活動を継続</li> <li>■ 全体として収益への影響は軽微であり、安定的なキャッシュの創出を図っていく</li> </ul>
IT	<p>【全体として収益への影響は軽微】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院向けサービスへの影響はあるも電子コミックサービスは堅調に推移すると想定</li> </ul>	

### 3. 参考資料

## 開示セグメントの変更

- 2020年度より、マテリアル事業領域から「繊維・製品」を、その他から「IT事業」を独立させた新セグメントへ
- 1Q実績公表時に新セグメントにて実績を開示するとともに、業績予想についても新セグメントで開示予定

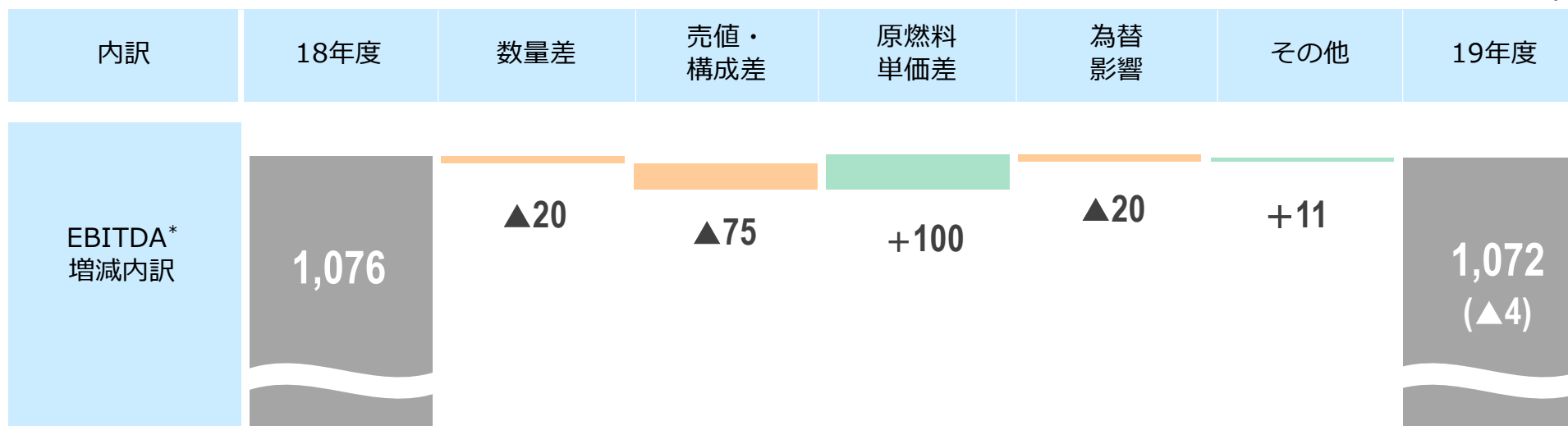


## ◆ EBITDA\*増減（連結合計） [前年度対比]

（億円）

	18年度	19年度	差異	増減率
売上高	8,886	8,537	-348	-3.9%
EBITDA*	1,076	1,072	-4	-0.4%
減価償却費	476	510	+34	+7.1%
営業利益	600	562	-38	-6.3%

（億円）



\* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

3. 参考資料（2019年度決算）

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 **[前年度対比（累計）]**

	18年度実績					19年度実績					差異	増減率
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間		
<b>売上高</b>												
マテリアル事業	687	657	628	667	2,639	627	610	533	532	2,303	-336	-12.7%
繊維・製品事業	738	803	812	831	3,183	738	804	772	749	3,063	-120	-3.8%
複合成形材料事業ほか	219	217	227	231	894	234	244	252	242	972	+79	+8.8%
<b>マテリアル 計</b>	<b>1,644</b>	<b>1,676</b>	<b>1,667</b>	<b>1,729</b>	<b>6,716</b>	<b>1,599</b>	<b>1,659</b>	<b>1,558</b>	<b>1,523</b>	<b>6,338</b>	<b>-377</b>	<b>-5.6%</b>
ヘルスケア	392	412	397	374	1,575	398	391	403	347	1,539	-36	-2.3%
その他	128	142	139	187	595	149	164	153	193	660	+64	+10.8%
<b>合計</b>	<b>2,164</b>	<b>2,230</b>	<b>2,202</b>	<b>2,289</b>	<b>8,886</b>	<b>2,146</b>	<b>2,214</b>	<b>2,114</b>	<b>2,063</b>	<b>8,537</b>	<b>-348</b>	<b>-3.9%</b>
<b>営業利益</b>												
マテリアル	90	56	27	62	235	64	65	43	41	213	-22	-9.3%
ヘルスケア	99	119	94	42	355	105	89	97	34	326	-29	-8.2%
その他	6	19	13	33	72	13	25	17	24	80	+8	+11.6%
消去又は全社	-13	-15	-15	-18	-61	-13	-11	-13	-19	-56	+5	-
<b>合計</b>	<b>183</b>	<b>179</b>	<b>119</b>	<b>119</b>	<b>600</b>	<b>170</b>	<b>168</b>	<b>145</b>	<b>80</b>	<b>562</b>	<b>-38</b>	<b>-6.3%</b>

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比 及び 直前四半期対比]

	18年度				19年度				差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	19/4Q -18/4Q	19/4Q -19/3Q
売上高										
マテリアル事業	687	657	628	667	627	610	533	532	-135	-1
繊維・製品事業	738	803	812	831	738	804	772	749	-82	-23
複合成形材料事業ほか	219	217	227	231	234	244	252	242	+11	-10
マテリアル 計	1,644	1,676	1,667	1,729	1,599	1,659	1,558	1,523	-206	-35
ヘルスケア	392	412	397	374	398	391	403	347	-27	-56 *
その他	128	142	139	187	149	164	153	193	+6	+39
<b>合計</b>	<b>2,164</b>	<b>2,230</b>	<b>2,202</b>	<b>2,289</b>	<b>2,146</b>	<b>2,214</b>	<b>2,114</b>	<b>2,063</b>	<b>-227</b>	<b>-51</b>
営業利益										
マテリアル	90	56	27	62	64	65	43	41	-22	-3
ヘルスケア	99	119	94	42	105	89	97	34	-8	-62
その他	6	19	13	33	13	25	17	24	-9	+6
消去又は全社	-13	-15	-15	-18	-13	-11	-13	-19	-1	-6
<b>合計</b>	<b>183</b>	<b>179</b>	<b>119</b>	<b>119</b>	<b>170</b>	<b>168</b>	<b>145</b>	<b>80</b>	<b>-39</b>	<b>-65</b>

\* 海外価格調整や季節差等による減少

## ◆ 連結損益計算書 四半期推移

(億円)

	18年度				19年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,164	2,230	2,202	2,289	2,146	2,214	2,114	2,063
売上原価	1,477	1,556	1,564	1,610	1,470	1,534	1,461	1,438
売上総利益	687	674	638	679	677	680	653	624
販管費	505	494	519	560	507	512	509	544
営業利益	183	179	119	119	170	168	145	80
営業外損益	29	6	-4	-29	-1	-6	-1	-11
（内 金融収支）	6	-6	1	-4	-1	-5	-4	-4
（内 持分法投資損益）	3	11	2	-12	4	7	2	8
経常利益	212	186	115	90	169	162	144	69
特別損益	49	-13	-6	-29	-18	-23	6	-93
税金等調整前四半期純利益	261	173	109	61	151	139	150	-24
法人税等	64	24	37	11	40	37	47	21
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2	5	4	7	3	5	5	4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	195	144	68	43	108	97	97	-49



## ◆ 連結貸借対照表 四半期推移

(億円)

	17年度	18年度				19年度			
	3月末*	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
資産									
流動資産	4,779	5,205	5,465	5,227	5,239	5,116	5,255	5,280	5,053
固定資産	5,041	5,076	5,063	4,930	4,968	4,910	5,052	5,139	4,989
合計	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042
負債・純資産									
負債	5,737	6,047	6,193	5,860	5,934	5,860	6,103	6,065	5,928
(内 有利子負債)	3,442	3,852	4,007	3,740	3,692	3,743	4,076	3,982	3,819
純資産	4,082	4,234	4,335	4,297	4,272	4,166	4,204	4,354	4,114
合計	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、2017年度末（2018年3月末）については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

## ◆ 主要経営指標推移

	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績 <sup>*6</sup>	18年度 実績	19年度 実績
ROE <sup>*1</sup>	10.6%	15.7%	12.5%	11.2%	6.3%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	12.7%	10.0%	11.2%	9.3%	8.7%
EBITDA <sup>*3</sup> (億円)	1,060	958	1,155	1,076	1,072
1株当たり当期純利益 (円) <sup>*4</sup>	158.1	254.9	231.3	232.4	131.6
1株当たり配当金 (円) <sup>*4</sup>	35	55	60	70 <sup>*</sup>	60
*100周年記念配当 10円/株を含む					
総資産 (億円)	8,234	9,641	9,820	10,207	10,042
有利子負債 (億円)	3,033	3,762	3,442	3,692	3,819
D/Eレシオ <sup>*5</sup>	1.01	1.11	0.88	0.90	0.97
自己資本比率	36.4%	35.1%	40.0%	40.2%	39.3%

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出

<sup>\*</sup>純資産＋有利子負債－現金及び預金

\*3 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

\*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	18年度					19年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	87	87	102	82	358	99	100	105	82	386
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	26	25	27	22	100	25	24	24	21	94
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	5	4	4	4	17	4	4	4	3	15
ベニロン®	重症感染症治療剤	13	13	14	12	53	16	15	17	13	62
ムコソルバン®	去痰剤	10	10	12	9	41	9	8	10	7	34
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 瘻・神経内分泌腫瘍治療剤	8	9	10	10	37	11	12	12	12	47
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	6	4	20	6	5	6	4	21
ラキソベロン®	緩下剤	4	3	3	3	13	3	3	3	2	11
トライコア®	高脂血症治療剤	3	2	2	1	8	1	1	1	1	5
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	11	3	3	3	3	12

\*1 ボナロン®/Bonolon® はMerck Sharp &amp; Dohme Corp. (米)の登録商標です。

\*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2020年3月末現在)

\* 承認取得/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	承認申請	承認/ 新規上市*
骨・関節 領域	TCK-276*1		ITM-058 NT 201L	NT 201*2	
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TMX-049 TMX-049DN TMX-67HK		ITM-014T*3	
その他		JTR-161	GGs-MPA*4		GGs-CIDP*5 GGs-ON*6

\*1 2020年2月 関節リウマチの適応取得に向けた第I相試験に着手

\*2 2019年8月に「上肢痙縮」に対する製造販売承認申請を実施

\*3 「ソマチュリン」の適応拡大として、2020年3月に「甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍」の適応追加に対する一部変更承認申請を実施

\*4 「ベニロン」の適応拡大として開発中

\*5 「ベニロン」の適応拡大として、2019年8月に「慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチーを含む）の筋力低下の改善」に対する適応追加の承認を取得

\*6 「ベニロン」の適応拡大として、2019年12月に「視神経炎の急性期（ステロイド剤が効果不十分な場合）」に対する適応追加の承認を取得

### 3. 参考資料

#### ◆ 新規開発医薬品 (2020年3月末現在)

##### 【承認取得/上市\*】

\* 承認取得/上市は直近1年間を記載

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 (多巣性運動ニューロパチーを含む)	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年8月承認取得
GGG-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎の急性期 (ステロイド剤が効果不十分な場合)	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年12月承認取得

##### 【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NT 201 (インコボツリヌストキシンA)	上肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 2019年8月承認申請
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イブセン社 (効能・効果追加) 2020年3月承認申請

## ◆ 新規開発医薬品 (2020年3月末現在)

## 【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058 (アバロパラチド酢酸塩)	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201L (インコボツリヌス トキシンA)	下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫 グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社（効能・効果追加）

## ◆ 新規開発医薬品 (2020年3月末現在)

## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序 (CRTh2拮抗作用) によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果 (軽症患者) や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果 (軽症~重症の患者) が期待される。	錠剤	導入： 米GB001社
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-67HK (フェブキシスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリック®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品 (効能・効果追加)
JTR-161	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髓由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

## ◆ 新規開発医薬品 (2020年3月末現在)

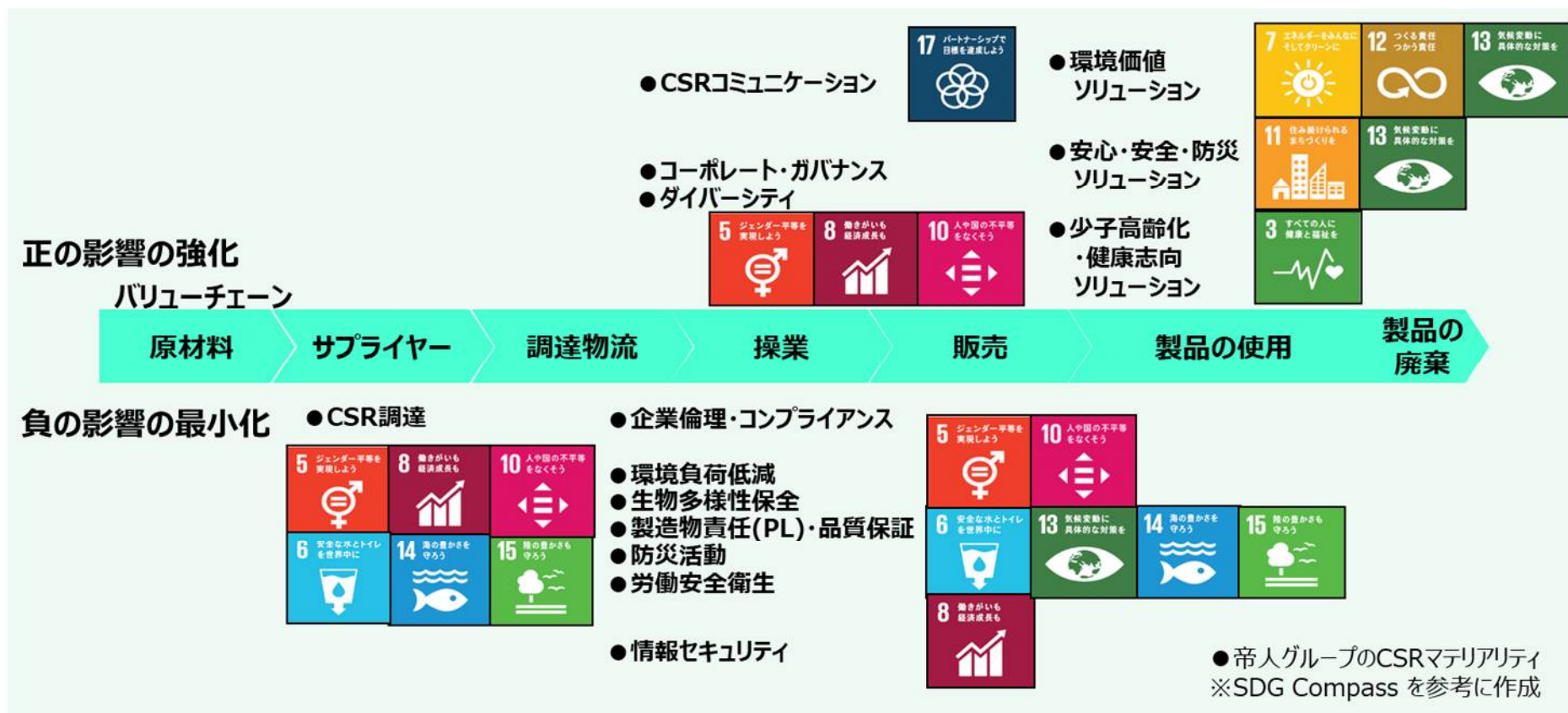
## 【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TCK-276	関節リウマチ	関節リウマチに特徴的なパンプス増生の主要細胞である滑膜線維芽細胞に直接作用して増殖を抑制することで抗リウマチ効果が期待される新たなクラスの経口治療薬。	錠剤	自社開発品



◆ 非財務情報 帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます



## ◆ 非財務情報 ESG外部評価

## GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。

ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定  
(経済産業省と東京証券取引所との共同主催)

「なでしこ」  
女性活躍推進



「ホワイト500」  
健康経営推進



「攻めのIT経営」  
IT活用推進



**TEIJIN**

*Human Chemistry, Human Solutions*